

年収アップに直結するスキルセットとは

国税庁「令和6年分 民間給与実態統計調査」によると、2024年の日本の民間給与所得者の平均年収は477.5万円である。一方、同じ労働市場においても、習得したスキルの種類・レベルによって年収は大きく分岐する。厚生労働省の調査（2024年3月）では、IT・デジタル分野の「企画立案・プロジェクト管理」職においてITスキルレベルが上がるごとに年収中央値が750万円・800万円・900万円と段階的に上昇することが示されており、スキルセットと年収の間に明確な相関関係が存在する。本稿では、複数の公的統計・国際調査データに基づき、年収アップに直結するスキルカテゴリとその根拠を整理する。

1. なぜ今、スキルセットが年収を決めるのか

労働市場における「スキル格差」に起因する賃金格差は、近年その規模が拡大している。世界経済フォーラム（WEF）が2025年1月に公表した「仕事の未来レポート2025（Future of Jobs Report 2025）」は、世界55か国・22業種・14,100,000人超の雇用を代表する1,000社超の経営者を対象に実施した調査に基づく大規模報告書である。同レポートは「2025年～2030年の間に、現在の総雇用の22%に相当する雇用が創出または消滅する」と試算し、1億7,000万の新規雇用創出と9,200万件の雇用消滅が同時に起きると予測している。この構造転換の中心にあるのがスキルの需給ミスマッチである。

同レポートは、2030年までに現在の労働人口の59%が追加的な研修・リスキリングを必要とする旨を指摘する一方で、そのうち11%は必要な再教育を受けられないリスクがあると警告している。また、雇用者の86%がAI・情報処理技術が自社の事業を変革すると回答しており、技術的変化が人材要件を急速に書き換えつつあることが確認されている。

59%

2030年までに追加研修が

必要とされる労働人口の割合

39%

2030年までに陳腐化・

変容する既存スキルの割合

86%

AIが事業を変革すると

答えた雇用の割合

37%

スキル水準が1段階上がるごとの

中央値賃金の上昇率(平均)

出典: World Economic Forum, [Future of Jobs Report 2025](#) (2025年1月)

日本市場でも同様の傾向が確認されている。IT人材サービスのレバテック株式会社が公表した「IT人材の正社員転職/フリーランス市場動向(2024年12月)」によると、IT人材の転職求人倍率は11.6倍に達しており、厚生労働省が発表した全職種平均の1.25倍(2024年11月)を大幅に上回る。スキル・職種別に見ると、セキュリティ(54.0倍)・コンサルティング(41.8倍)・PM(24.6倍)の順に求人倍率が高く、高度専門職に対する需要が特に旺盛であることが分かる。

出典: レバテック株式会社, [IT人材の正社員転職/フリーランス市場動向\(2024年12月\)](#)

2. 年収アップに直結する5つのスキルカテゴリ

WEFレポート(2025年)がまとめた「需要増加スキルのトップ10」と、国内外の年収調査データを照合すると、以下の5つのスキルカテゴリが年収と強い相関を示している。

① AIスキル・データ活用力

需要増加スキル 第1位 (WEF 2025)

AI・ビッグデータスキル

WEF「仕事の未来レポート2025」において、「AIおよびビッグデータ」は2025～2030年の最も需要が急増するスキルとして第1位にランクされている。雇用者の69%がAIツールの設計・開発ができる人材の採用を計画し、62%がAIと協働できる人材の確保を優先すると回答した(WEF, 2025)。

給与面への影響も数値で確認されている。Indeed社の報告(2025年)では、生成AIスキルを持つ技術者は持たない技術者に比べ47%高い給与を得ていることが示されている。また、DataCamp社の報告(2023年)によると、機械学習の専門知識を必要とする職種の給与は、平均的なIT職と比較して20～30%高い。PwCの調査(2025年)によれば、AI関連スキルを持つ労働者の賃金プレミアムは前年の25%から56%へと倍増した。

出典: WEF Future of Jobs Report 2025 / Indeed社調査(2025) / DataCamp社調査(2023) / PwC調査(2025, SBBit掲載)

② サイバーセキュリティスキル

給与面への影響② WEF 2025

ネットワーク・サイバーセキュリティスキル

WEFレポートは「ネットワークおよびサイバーセキュリティ」を需要増加スキル第2位と位置づけている。地政学的対立の激化・サイバー攻撃の増加を背景に、企業のセキュリティ人材ニーズは構造的に高止まりしている。

国内市場でも、レバテック社の調査(2024年12月)が示すようにセキュリティ職の転職求人倍率は54.0倍と全スキルカテゴリ最高を記録している。年収水準についてMorgan McKinleyの「2025年版東京サイバーセキュリティエンジニア年収ガイド」によれば、東京のサイバーセキュリティエンジニアの平均年収は1,000万円に達する。JAC Recruitment社の成約データ(2023年1月～2025年8月)では、CISO(最高情報セキュリティ責任者)等のセキュリティ上位職の年収は1,300万～2,300万円水準にある。

厚生労働省の職業情報提供サイト「job tag」によれば、正社員のセキュリティエンジニアの平均年収は628.9万円であり、国税庁が公表した日本の民間平均給与477.5万円(2024年)を大幅に上回っている。

出典: レバテック(2024年12月) / Morgan McKinley 2025年版年収ガイド / JAC Recruitment成約データ(2023年1月～2025年8月) / 厚生労働省 job tag / 国税庁「令和6年分 民間給与実態統計調査」

③ プロジェクトマネジメント・コンサルティングスキル

経産省求人倍率・PM 24.8倍 / コンサル 41.8倍 (2024年12月)

プロジェクトマネジメント(PM)・コンサルティングスキル

厚生労働省「IT・デジタル人材の労働市場に関する研究調査事業」(2024年3月、対象:個人2,000名・企業158社)によると、デジタル人材の職種別年収中央値において「企画立案・プロジェクト管理」は全職種で最高水準を示した。ITスキルレベル別の年収中央値は以下の通りである。

職種	レベル3	レベル4	レベル5以上
企画立案・プロジェクト管理	750万円	800万円	900万円
設計・構築	550万円	635万円	700万円
運用・保守	550万円	650万円	850万円

役職別の分析でも、同職種の年収中央値(担当者600万円 → 主任・係長等800万円 → 課長820万円)は他職種を一貫して上回っている。

JAC Recruitment社のデータでは、コンサルティング・アドバイザー職の平均年収は996.5万円、経営・事業企画職は1,063.4万円となっており、技術職(727.9万円)や一般職との差が明確に示されている。プロジェクトマネジメント専門家認定(PMP®)に関しては、PMI「Salary Survey 第14版(2025年)」が21か国のデータを集計し、PMP取得者の年収中央値は非取得者より平均33%高いことを示している。米国では、PMP取得者の中央値給与13万5,000ドルに対し、非取得者は10万9,157ドルと約24%の差が生じている(PMI, 2025年プレスリリース)。

出典:厚生労働省 [IT・デジタル人材の労働市場に関する研究調査事業](#) (2024年3月) / JAC Recruitment成約データ (2023年1月~2025年8月) / PMI [Project Management Salary Survey, 14th Edition](#) (2025年)

④ クラウドスキル

フリーランス案件倍率調査(2024年12月)

クラウドアーキテクチャ・クラウド運用スキル(AWS / Azure / GCP)

レバテック社の調査(2024年12月)によれば、フリーランス案件の求人倍率において「クラウド」はPMと並んで第1位(2.2倍)を記録している。正社員転職市場でも、クラウド関連求人数は前年同月比120%以上の増加傾向にある。

資格と年収の相関について、サーバーワークス社が2024年に公表したAWS資格取得者調査では、AWS資格取得者の年収600万円以上の割合は53%であるのに対し、未取得者は38%にとどまる。また、AWS認定ソリューションアーキテクト(プロフェッショナルレベル)の平均年収は740~760万円であり、アソシエイトレベル(約570万円)と比較して約30%高い水準にある。資格取得者の99%が「業務に役立った」と回答していることも、投資対効果の観点から注目に値する。

出典:レバテック(2024年12月) / サーバーワークス社 [AWS資格に関する調査結果](#) (2024年)

⑤ ポータブルスキル(分析的思考・創造的思考・リーダーシップ)

フリーランス案件倍率調査(2024年)

ポータブルスキル(職種横断型の汎用能力)

WEFレポート(2025年)は、技術スキルと並んで「分析的思考」「創造的思考」「レジリエンス・柔軟性」「リーダーシップ・社会的影響力」をトップ10の高需要スキルに挙げている。特に「分析的思考」は、雇用主の70%が2025年において不可欠と評価する最重要コアスキルとして首位を維持している。

日本のデータに目を向けると、厚生労働省の調査(2024年)は、問題解決・課題設定・実行管理といったポータブルスキルのスコアが、過去1年間に賃金が上昇した労働者では上昇しなかった労働者より平均1.2倍高いことを示している。企業の採用基準としても、ITスキルレベルが最重視(47~57%の企業が回答)された次に「過去の実績と経験」(26~41%)が挙がっており、技術スキルと実行力の両面が総合的に評価されることが確認されている。

さらに、WEFは「ジョブゾーン」の概念を用いた分析において、スキル水準が1段階上がるごとに中央値賃金が平均37%上昇し、特にジョブゾーン3から4への移行時に48%の賃金プレミアムが発生することを示している(WEF Future of Jobs Report 2025, p.59)。

出典: WEF Future of Jobs Report 2025 / 厚生労働省 IT・デジタル人材の労働市場に関する研究調査事業(2024年)

3. スキルレベルと年収: 国内データの詳細分析

日本国内における職種別・職位別の年収データを複数の調査から整理する。

職種・ポジション	年収水準(中央値・平均)	データソース
日本の民間給与所得者(全職種平均)	477.5万円(2024年)	国税庁「令和6年分 民間給与実態統計調査」
ITエンジニア全体(平均)	約550万円(2024年)	厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査(速報)」
企画立案・プロジェクト管理(Lv.3)	750万円(中央値)	厚生労働省 IT・デジタル人材調査(2024年)

企画立案・プロジェクト管理 (Lv.5以上)	900万円 (中央値)	厚生労働省 IT・デジタル人材調査(2024年)
IT系コンサルティング・アドバイザー	996.5万円 (平均)	JAC Recruitment成約データ(2023年1月~2025年8月)
IT系管理職(課長以上)	1,123.4万円 (平均)	JAC Recruitment成約データ(同上)
外資系IT職(全職種平均)	1,105.6万円 (平均)	JAC Recruitment成約データ(同上)
英語力「上級」保有者(IT職)	1,175万円 (中央値)	JAC Recruitment成約データ(同上)
セキュリティCISO・上位職	1,300~2,300万円	JAC Recruitment成約データ(同上)

出典: 国税庁「令和6年分 民間給与実態統計調査」/ 厚生労働省 [IT・デジタル人材の労働市場に関する研究調査事業](#)(2024年)/ JAC Recruitment [IT系職種の平均年収](#)(2023年1月~2025年8月)

表が示す通り、日本の全職種平均(477.5万円)に対し、企画立案・プロジェクト管理職のスキルレベル5以上は900万円と約1.9倍、コンサルティング職は約2.1倍の水準にある。さらに英語力上級保有者では中央値が1,175万円に達し、語学力と専門スキルを組み合わせることで非保有者との差は400万円超に拡大することが確認されている。

4. 資格取得が年収に与えるインパクト

資格はスキルレベルを可視化・証明する手段として機能し、採用・処遇交渉における市場価値に影響する。複数の調査から資格と年収の相関を確認する。

PMP®(プロジェクトマネジメント・プロフェッショナル)

PMIが公表した「プロジェクトマネジメント給与調査 第14版(2025年)」(21か国調査)によると、PMP取得者の年収中央値は非取得者より33%高い。PMIの2025年プレスリリースでは、米国のPMP取得者の中央値給与は135,000ドル(約2,025万円)であり、非取得者の109,157ドル(約1,637万円)と比べて約24%高い水準にある。また、PMI調査対象者の約3分の2が過去12か月に賃金引き上げを受けたと回答している。

出典: PMI Project Management Salary Survey, 14th Edition (2025年) / PMI Press Release (2025年)

AWS認定資格

サーバーワークス社の調査(2024年)では、AWS認定ソリューションアーキテクト・プロフェッショナルの保有者の平均年収はアソシエイト保有者比で約30%高い。資格取得者と未取得者の比較では、年収600万円以上を得ている割合が53%対38%(取得者vs.未取得者)と15ポイント差が存在する。また取得者の99%が「業務に役立った」と回答しており、スキル向上への実務的効果が確認されている。

出典: サーバーワークス社 AWS資格に関する調査(2024年)

セキュリティ資格(CISSP等)

JAC Recruitment社の成約データでは、CISSPをはじめとする高度情報セキュリティ資格を保有するITコンサルタントへの転職事例で800万円から1,200万円(前職比+400万円、約50%増)への年収アップが実現している。CISOポジションにおいてはさらに高い1,300万~2,300万円水準が報告されている。

出典: JAC Recruitment成約データ(2023年1月~2025年8月)

5. スキルアップの実践的アプローチ

上記のデータに基づき、年収アップに向けたスキル習得の方向性を整理する。

ステップ1: 現在のスキルレベルと市場需要のギャップを把握する

厚生労働省の調査(2024年)では、企業がIT・デジタル人材を採用・処遇する際に最も重視する要素として「ITスキルレベル」(47~57%の企業が回答)が首位に挙げられている。IPA(独立行政法人情報処理推進機構)が定めるITスキル標準(ITSS)はスキルレベルを7段階で規定しており、自己評価の基準として活用できる。同調査によれば、ITスキルレベルの評価手段として、履歴書・職務経歴書のプロジェクト詳細(71~74%の企業が活用)が最も普及しており、資格・認定バッジ(37~51%)がこれに続く。

出典: 厚生労働省 IT・デジタル人材の労働市場に関する研究調査事業(2024年)

ステップ2:「需要最大化スキル」から優先的に投資する

WEFレポート(2025年)が示す2025~2030年の需要増加スキルトップ10は以下の通りである。年収との相関が高いスキルは上位を占めており、学習リソースの配分における優先順位付けの根拠として活用できる。

順位	スキル	カテゴリ
1	AIおよびビッグデータ	技術系
2	ネットワークおよびサイバーセキュリティ	技術系
3	テクノロジーリテラシー	技術系
4	創造的思考	認知系
5	レジリエンス・柔軟性・アジリティ	自己管理系
6	好奇心・生涯学習	自己管理系
7	リーダーシップ・社会的影響力	対人系
8	タレントマネジメント	対人系

9	分析的思考	認知系
10	環境スチュワードシップ	その他

出典: WEF Future of Jobs Report 2025 (Figure 3.4, p.37)

ステップ3: 資格・認定取得でスキルを市場に可視化する

前述の通り、PMP®取得者は非取得者比で33%高い年収中央値を記録している。AWS認定資格でも30%の年収差が観察されている。厚生労働省の調査(2024年)は、採用企業の37~51%が資格・認定バッジをスキル評価の根拠として活用していることを示しており、資格は採用・処遇交渉においても有効な証拠として機能する。

ステップ4: マネジメント経験・語学力を組み合わせて複合的に差異化する

JAC Recruitment社のデータでは、管理職(課長以上)の平均年収が一般職員比で約40%高い(1,123.4万円 vs. 800.6万円)。英語力上級者の中央値は1,175万円であり、非保有者との差は400万円超に達する。WEFレポートも「リーダーシップ・社会的影響力」「タレントマネジメント」を2030年に向けて急増するスキルとして位置づけており、技術スキルとマネジメント・語学スキルの組み合わせが高い年収水準の実現に有効であることがデータで裏付けられている。

出典: JAC Recruitment成約データ(2023年1月~2025年8月)/ WEF Future of Jobs Report 2025

6. 市場構造の変化と中長期的展望

経済産業省「DXレポート」は、日本企業がDXに取り組まなかった場合、2025年以降に毎年最大12兆円の経済損失が生じる「2025年の崖」問題を指摘している。これを背景に、レバテック社の調査(2024年12月)では、コンサルティング職の求人数が前年同月比132%増、クラウド・セキュリティ関連も120%以上増加するなど、DX推進に不可欠なスキルへの需要が急拡大している。フリーランス市場ではPM案件が前年比214%増、コンサル案件が195%増となっており、高度専門人材の市場流動性は一層高まっている。

WEFの試算では、2030年までに1億7,000万の新規雇用が創出される一方で、既存スキルの39%が陳腐化するとされる。雇用者の52%が2030年までに賃金の労働比率を高める意向を示しており、その主な動機は「生産性・成果に連動した賃金配分」(77%の雇用者が採用)と「希少人材の確保」(71%が採用)である。これは希少スキルを保有し実績を上げた人材に対し、市場原理によって高い報酬が支払われる構造がより鮮明になることを意味する。

出典: 経済産業省「DXレポート」/ レバテック(2024年12月)/ WEF Future of Jobs Report 2025

注:本稿で言及した年収数値はいずれも調査対象・時点・算出方法により差異がある。厚生労働省の数値は統計的に算出されたIT・デジタル人材の中央値・平均値であり、JAC Recruitmentの数値は同社のハイクラス転職成約データに基づくものである。各データの定義や調査条件については引用元の原典を参照されたい。

📄 本稿のポイント(エビデンスサマリー)

- **AIスキル**:生成AIスキル保有者は非保有者比で47%高い給与(Indeed, 2025)、AI関連スキルの賃金プレミアムは前年25%→56%へ倍増(PwC, 2025)。
- **セキュリティスキル**:国内転職求人倍率54.0倍(全スキル最高、レバテック 2024年12月)、東京のサイバーセキュリティエンジニア平均年収1,000万円(Morgan McKinley, 2025)。
- **PMスキル**:企画立案・プロジェクト管理のITレベル5以上で年収中央値900万円(厚生労働省, 2024)。PMP取得者は非取得者比33%高い年収中央値(PMI Salary Survey, 2025)。
- **クラウドスキル**:AWS Professional保有者の平均年収はAssociate比約30%高い(サーバーワークス社, 2024)。
- **ポータブルスキル**:賃金上昇者のポータブルスキルスコアは非上昇者の1.2倍(厚生労働省, 2024)。スキル水準1段階の上昇で中央値賃金平均37%増(WEF, 2025)。
- **マネジメント・語学力**:管理職(課長以上)の平均年収1,123.4万円、英語力上級者の中央値1,175万円(JAC Recruitment, 2023年1月~2025年8月)。

監修者

鎌田光一郎

青山学院大学法学部卒業。SMBC日興証券株式会社にて証券営業、経営管理業務に従事したのち、PwCコンサルティング合同会社に転籍。金融機関に対するコンサルティング業務に従事。その後、Librus株式会社を設立し、代表取締役役に就任。

本記事はLibrus株式会社が作成・保有するオウンドメディアコンテンツです。Librus株式会社は、サイバーセキュリティをはじめとした経営コンサルティングサービスを提供しています。

お問い合わせ先

Librus株式会社(代表取締役 鎌田光一郎)

〒105-0004 東京都港区新橋6丁目13-12 VORT新橋Ⅱ 4F

TEL: [03-6772-8015](tel:03-6772-8015)

お問い合わせフォーム: <https://librus.co.jp/contact>